

施策評価表

平成28年度分

①	施策コード	6・1・7	評価担当課	農林課	総合戦略	行政経営	過疎
②	施策名	森林資源の活用と多面的機能の充実					
③	目標	農林業の振興（基盤整備や経営指導など）に満足している町民の割合					
④	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本町の農業は、稲作と畜産が生産額の大半を占めています。近年では新たな柱の一つとして園芸作物（ブロッコリーや小菊など）の振興にも力を入れています。また、本町は平沼地から中山間地域までを有していることから、地域の特性を活かした農業の展開が求められています。 ◆ 農業を取り巻く情勢は厳しさを増していますが、本町においても例外ではなく、農家数減少、農業従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加など問題は深刻化しています。本町においては、農業生産基盤の整備や生産技術の向上、将来的な農業の担い手対策など、これらの課題に対応するための取組みを行っています。 ◆ 畜産についても、農家数は減少しておりますが、酪農は、中核的農家の規模拡大が進んでいる一方で、繁殖和牛は小規模農家が多く、飼養頭数は減少傾向にあります。 ◆ 食の安全・安心志向への高まりの中、引き続き環境保全型農業を進めていくとともに、消費者との交流を深めながら、顔の見える農業や地産地消に取り組んでいく必要があります。また、高齢者や女性グループを中心に農産物の加工や直売所などでの販売も広がりを見せており、本町ならではの特産品開発や二次産品に期待が寄せられています。 ◆ 森林は、本町の行政区画面積の7割を占め、木材生産のほか水源涵養等の多面的機能を有しており重要な役割を担っています。そのため、町の森林整備計画に基づき、貴重な財産である自然環境の保全や水資源の涵養などのため森林の整備に努めるほか、都市住民との交流の場、環境学習の場として活用していくなど、総合的な地域林業の振興が求められます。 		施策の内容	<p>適正な森林施策の推進と森林病害虫の防除に取組み、優良材の生産による木材利用の促進と水源の涵養などの多面的機能の維持発揮に努めます。</p> <p>あわせて、交流・教育・健康に着目した新たな森林活用に向けた検討を進めます。</p>		

⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)				
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
森林整備面積(造林、下刈、除伐、間伐)	ha	150.9	138.4	147.6	143.0	147.0	156.0
森林病害虫防除本数(松くい虫、ナラ枯れ)	本	5,381	5,762	2,928	2,998	1,920	4,500

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	27年度	28年度	29年度(計画)	30年度(計画)	31年度(計画)
	79,032	62,614	68,333	64,210	64,210

1年間の取組の総括

⑧	1年間の主な取組と成果	<p>森林育成事業により、植林、下刈り、除伐、間伐などの町有林の造林事業を実施したほか、森林総合整備事業補助金などにより、優良材生産の促進、森林所有者の経済的な負担軽減を図った。</p> <p>また、松くい虫、ナラ枯れ被害木の抜刀を行い、健全な森林の整備に努めた。</p>
⑨	施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	<p>○</p> <p>【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要</p>

今後の取組

⑩	今後の取組	<p>町の森林整備計画に基づく適正な造林事業の実施と、森林病害虫防除事業により、森林資源の適正な管理、森林の持つ多面的機能の維持を図る。</p>
---	-------	--

⑪	次年度以降の方針 (主担当課)	現状維持	<p>【説明欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工林伐採後の植林を推進するため、町単独の森林総合整備振興事業補助金の増額。 ・病害虫防除対策事業は、守るべき景観や、道路、住宅脇などの危険木を主体に伐倒駆除を実施。
	委員会評価	現状維持	<p>【委員会意見欄】</p> <p>町の森林整備計画に基づく適正な造林事業の実施と、森林病害虫防除事業により、森林資源の適正な管理、森林の持つ多面的機能の維持を図ること。</p>